

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほのぼのこ・児童発達支援		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 16日		～ 2026年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 16日		～ 2026年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 7日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・集団療育の中で感じたことですが、利用児童へ個々に伝えると受け止めて理解し気づきにつなげることも可能ですが、集団の中では他児童の目が気になり、素直に受け止められなくなる場面もあります。個別療育では個々に伝えられる時間と空間があります。個々の素敵な面を伝えながら、自己否定を自己肯定感へとつなげています。	課題においても、できなかった点に視点を向けるのではなく、出来ている部分に視点を置き、前回と比べてどこが進化しているかを具体的に伝えながら、出来ていない部分を一緒に取り組む関わりを大切にしています。	事前にタイムスケジュールやルールを伝えることで、それらを意識して活動してくれています。
2	個々の特性に合ったか関わり合いを考慮しています。例えば、児童によっては『口出しせず・手出しせず』の関わりの中で興味・関心事を広げて行ったり、自身からやってほしいことを伝えに来てくれる場面も増えていきます。このように個々の特性に合わせて療育を個別ではさらに大切にしています。	登所時ひとり一人の児童に『今日も来てくれてありがとう』『今日も楽しもうね!』と顔を見て体調や表情を伺いながら声掛けを行っています。	日々楽しんでもらえるよう、児童の成長過程に合わせた机上課題の工夫や、自由時間は興味関心事を広げる為個々の好きなこと得意なことをさらにステップアップした遊びの提供を行っています。
3	『やればできた!』『僕・私ってすごい!』と感じてもらえる経験値を高めながら、自己肯定感につなげられる活動の提供を行っています。	できていない面に視点を向けるのではなく、出来ている点前回とどの部分が上達しているかを、具体的な言葉で伝え、出来なかった部分への意欲につなげています。	誰かと比べるのではなく、『君は君なんだよ』という事を今後も児童にそして保護者の方にも伝えていきたいと思っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフの人材育成	児童の成長段階に寄り添ったスタッフの療育向上も重要。	日々感じていることと思っていることを言葉にし合える環境づくりを大切にしています。その中で児童が登所してくるまでの時間で日々ミーティングを行っています。
2	児童の成長に寄り添った課題のさらなる工夫。	個々の生活面(トイレトレーニングなど)・学習面の遅れを個別療育の中でどこまで対応してゆけばよいのか課題となっています。	保護者様・担任の先生とも情報共有させていただきながら、個々の児童の生活面・学習面をより理解・把握してゆくことが今後も課題となっています。
3	ご利用希望時間が重なるため、利用を希望されても要望にお応えできないケースもあります。	個別療育環境の確立に伴いスタッフの育成や増員は課題。	充実した個別療育課題の提供と、それらの思いを伝えられる人材の確保と育成は今後も課題です。

公表 事業所における自己評価結果

(NO.4)

事業所名		公表日			
ほてりあはくび(児童発達支援)		2026年 5月 / 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		利用児童の心身に障害や環境を提供している。	前回のミーティングにて提案している。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		利用児童の心身に障害や環境を提供している。	利用児童の多い時間帯のスタッフの増員
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		この辺りまでとこどもが利用しやすいように配慮している。	その日の児童の心身に障害や環境の配慮を行う
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		朝の清掃を含めた清掃の徹底。	換気や消毒の徹底
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		当日の児童の心身に障害や環境を提供している。	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		定期的に情報交換を行い、内容をスタッフ間で共有し徹底している。	継続して取り組む
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		情報共有リスト「HUG」にて情報共有や困りごとを改善	保護者の方の声を大切に受け止める。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		今年ミーティング等で困りごと等を産み出す環境に配慮している。	取組む声に配慮する
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		本年度 第三者委員会 実地検討	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		定期的に研修会を実施している。	不欠かスタッフにも研修内容を周知している。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		定期的に見直しを行い公表している。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		モニタリング面接・面談にて情報共有を行う。	今後引き続き考慮して中。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		成長過程に配慮した支援の見直しを行っている。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		支援計画での情報をスタッフ間で共有し共有している。	定期的に見直し実施
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		日時を心じて活動しているが、目的の達成が目的としている。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		成長過程に配慮した支援内容をスタッフ間で話し合っている。	支援内容や計画の定期的見直し実施。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		個別療育においても細かな療育を心掛けています。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		定期的な支援の見直しを行う	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		利用児童の活動レベル レベル・障害・環境・適性 状況に基づいて計画の作成。	個別・集団3部制をとり 状況に基づいて計画の作成。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		業務内容で情報を 確認共有している。	HUSを日々確認。 情報共有の仕組みはいる。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		//	//
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		共有し事例を改善内容 へつなげている。	スタッフ間の情報共有 を徹底している。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		スタッフ間で声かけ 改善へつなげている。	判断は日々行っている 複数で行っている。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		理解し内容を共有し その情報共有している。	情報共有を徹底 している。
関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		事業所内での情報の 発信・受信を徹底している。	個人情報保護に徹底 している。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者を通じての 収集や共有がなされている。	必要事項はスタッフ間で 共有している。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				
	28	(28~30は、センターのみ回答)				
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		保護者からの困り事に 応じてアドバイスを行っている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		夏祭りの実施にて活動の 場を確保している。	毎年好評なイベント (バーベキュー大会等)
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		お迎えの際やHUSを 通じて丁寧な対応を行っている。	必要事項はスタッフ間で 共有している。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		必要と感じた保護者へ パワポによる研修提供を行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		ご契約日や変更の取 扱いは丁寧な説明を行う。	更新するにも内容明確に 伝えている。
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		お迎えの際等情報の 共有が徹底して入念に行っている。	必要に応じて日時調整 を行っている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	支援計画作成は1人1人 2タイプに分けています。	定期的な見直し実施
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	お困りごとの内容に応じて 時間を取る際は	日時を合わせて 適確に対応している。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	夏祭りに12月頃には 参加している。	毎年実施している 支援も実施している。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	お困りごとの内容に応じて 時間を取る際は	日時を合わせて 迅速に対応している。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	HPやインスタグラム等 も広く発信している。	更新も定期的に行 っている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	守秘義務徹底	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	個別での対応を 心がけている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	夏祭りを含めたイベントの 開催を計画している。	ホステルなどの自遊を 事前に行っている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	また今後はこの内容を 更新し始めている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	ペーパーシートにて 情報共有、把握している。	ペーパーシートの活用
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	〃	〃
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	ペーパーシートの内容を 定期的に見直ししている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	人材育成が主目的の 研修の開催	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	HPを通じて自費からの 研修を受けさせている。	研修に関する情報は 迅速に共有している。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハット事例の共有 を行っている	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待に関する研修は 個人の思いを尊重して 実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	身体拘束に伴う研修 も実施している。	研修の回数も 研修に追加している。